



渡は、気遣った、暴力はいけません

インターネットを調べていた

岐阜でマラソン大会がある

ちょっと行ってみようかな

そんな軽いノリで、

参加することにした

東京から、新幹線で岐阜へ

結構、田舎だった

冬

寒い

1人で行ったから、話す人も皆無だった

とりあえず、体育館で人々にまみれて

ランニング服と、シューズに、着替える

まあ、何着でもいい、気軽に走ろう

どのくらいの人数の人が参加していたかも、憶えてないが

沿道には、応援している人達もいる

序盤から、マイペースで走り

無理はしなかった

気軽に

...

ただ、終盤ラッシュをかけて、

東京の人間も結構やるんだぞ！

と、勝手に頑張って

どんどん抜いていく

そして、更に抜いてゴール

何位かはまったくわからなかったが

すぐに、温かいもつ煮や、お餅が配られた

おいしい！

これだけでも、来たかいはあったな

走った選手たちは、体育館に集まっていた

まあ、やり過ぎそう

と、表彰がおこなわれていたら

「今回は、特別、東京からお越しになった方がいます」

渡は、あれ、自分のことかな？

と、思ったら、サプライズで表彰された

万雷の拍手

「ありがとうございます」

無事マラソン大会は終わった

日帰りで、新幹線で東京に帰る

ただ、新幹線も、来る間隔が遅い

岐阜の古びた、歩道橋を渡り

ベンチに座っていた

横のベンチに、女の子が座っていた

...

しばらくして、若い男がやってきた

さっきの女の子のところへ

...

しばらくすると、いきなりその男が女の子に暴力を振るっていた

俺は、右を向いた瞬間ふと気づくと

とっさに

「どうしました、どうしました」

と、声をかけた

「なんでもありません」

女は

「だから、私は言ってるじゃない！」

「帰る！」

俺は、

「落ちついて」

しばらく、口論は続いていたが、

俺は、暴力だけは避けるように、ジッと見ていた

暴力はおさまったようだ

...

少し落ち着いたようだ

こんな時、父なら、温かいものでも差し上げていたよな

そんなことがよぎった

俺は、ちょっと行って来るね、と言うと

勘のいいその男は、いいですよ

と言う

俺は

いいから、いいから

と言って

歩道橋を渡り直し、

自動販売機を探した

自分の分も買って

3個のホットコーヒー

戻ると、歩道橋の上に男女はいて、また少し揉めていた

男が女を無理やり、連れてきた感じだった

俺は、「とにかく温かいコーヒーでも飲んで」

と言うと、男は即座に金を渡してきた

俺は「いいのに」と言いながら、それを受け取った

女は、そんな俺を羨望の眼差しで見ている

それは、この人は、助けてくれたのか？

この人は、私たち2人の関係を繋げてくれたのか？

もしくは、なぜ、私を1人で、新幹線で行かせなかったのか？

なぜ、缶コーヒーを買ってきたのか？

わからないが、眼差しを感じた

俺は、その若い男に、「俺もわかるんだけど、暴力だけは駄目だ」と云った

自分も家で暴れたりしたから、わかるんだ、という意味だ

でも、俺は、女性への暴力だけはしてはいけないと育てられたので

そういう風に云った

そして、あえて、「じゃあ、仲良くね」と言って、俺は、また駅のホームへ向かった

2人は結局、この場面では、岐阜にとどまった

その後、2人がどうなったかは知らないが、

なんとなく、仲良くなっていたらいいな、くらいには思う

そんな、俺も、その後、東京に帰ってからは、暴れた気がする

女に手を出した記憶はないが、

軽い暴力や、物に当たることはあって、キレタことはあると思う

だから、偉そうなことは言えないのだが...

忍耐力が必要だった

「完」